

S I A認定スノーボード教師 実技・指導実習検定基準 <資料>

スノーボード・ステージⅠ

1. 実 技

(1) 初歩のターン

(緩斜面 幅10m以上×長さ50m程度の平滑な斜面)

- イ. 停止から先落としを連続する。
- ロ. 明確な重心移動が行われている。
- ハ. 左右の振り幅が均等である。
- ニ. ボードのねじれを利用したコントロールができています。

(2) スライディングターン (ロング)

(緩斜面 幅20m以上×長さ150m以上の平滑な斜面を滑る)

- イ. 適度にコントロールされたスピードを保っている
- ロ. 弧の大きさが滑走状況にあっている
- ハ. 1ターンごとにボードをフラットにして切り替えている
- ニ. ボードのねじれを利用したズレを伴うターンをしている

2. 指導実習

- イ. 適切な言葉遣いができる。
- ロ. 指導能力（表現力・説明力）がある。
- ハ. 技術及び用語を理解している。
- ニ. 指導カリキュラムを理解している。

スノーボード・ステージⅡ

1. 実 技

(1) 初歩のターン

(緩斜面 幅10m以上×長さ50m程度の平滑な斜面)

- イ. 停止から先落としを連続する。
- ロ. 明確な重心移動が行われている。
- ハ. 左右の振り幅が均等である。
- ニ. ボードのねじれを使用したコントロールができています。

(2) ロングターン

(中斜面 幅30m以上×長さ150m程度の平滑な斜面)

- イ. スピードに応じたポジショニングで滑っている。
- ロ. コントロールされたスピードとリズムである。
- ハ. 左右のターン弧のバランス及び大きさが滑降状況にあっている。
- ニ. 安定したボディーバランスである。

(3) ショートターン

(中斜面 幅20m以上×長さ150m程度の平滑な斜面)

- イ. スピードに応じたポジショニングで滑っている。
- ロ. コントロールされたスピードとリズムである。
- ハ. 左右のターン弧のバランス及び大きさが滑降状況にあっている。
- ニ. 安定したボディーバランスである。

(4) フェイキーターン

(緩斜面 幅30m以上×長さ100m程度の平滑な斜面)

- イ. 通常とは逆方向への連続ターンとする。
- ロ. スピードに対応した体軸の入れ換えを行っている。
- ハ. 左右のターン弧のバランス及び大きさが滑降状況にあっている。
- ニ. 安定したボディーバランスである。
- ホ. スピードのコントロールができています。

2. 指導実習

- イ. 適切な言葉遣いができる。
- ロ. 指導能力（表現力・説明力）がある。
- ハ. 技術及び用語を理解している。
- ニ. 指導カリキュラムを理解している。

スノーボード・ステージⅢ

1. 実 技

(1) ロングターン

(中急斜面 幅30m以上×長さ150m程度の平滑な斜面)

- イ. スピードに応じたポジショニングで滑っている。
- ロ. コントロールされたスピードとリズムである。
- ハ. 左右のターン弧のバランス及び大きさが滑降状況にあっている。
- ニ. 安定したボディーバランスである。

(2) ショートターン（両脚操作）

(中急斜面 幅20m以上×長さ150m程度の平滑な斜面)

- イ. スピードに応じたポジショニングで滑っている。
- ロ. コントロールされたスピードとリズムである。
- ハ. 左右のターン弧のバランス及び大きさが滑降状況にあっている。
- ニ. 安定したボディーバランスである。

(3) 総合滑降

(中急斜面 幅50m程度×長さ200m程度の平滑な斜面)

- イ. 斜面の変化に応じた操作及びスピードのコントロールができています。
- ロ. 安定したボディーバランスである。
- ハ. 積極的なボード操作を行っている。
- ニ. 斜面状況に合わせたターン弧で滑っている。
- ホ. ターンリズムを変化させている

(4) エアー

(幅10m程度×長さ50m程度の安全な着地点を確保できる斜面上に作成したエアー台を使用する)

イ. 積極的なアプローチと安定した空中バランス

ロ. 条件に合った飛距離と安定した着地

ハ. トリックは評価しない

2. 指導実習

イ. 適切な言葉遣いができる。

ロ. 指導能力（表現力・説明力）がある。

ハ. 技術及び用語を理解している。

ニ. 指導カリキュラムを理解している。

ホ. 指導展開が適切である。

スノーボード・ステージⅣ

1. 実 技

(1) ショートターン（不整地を含む）

(中急斜面 幅20m以上×長さ150m程度の平滑な斜面)

イ. スピードに応じたポジショニングで滑っている。

ロ. コントロールされたスピードとリズムである。

ハ. 十分に回し込まれている。

ニ. 左右のターン弧のバランス及び大きさが滑降状況にあっている。

ホ. 安定したボディーバランスである。

(2) 総合滑降

(中急斜面 幅50m程度×長さ200m程度の平滑な斜面)

イ. 斜面の変化の応じた操作及びスピードのコントロールができています。

ロ. 安定したボディーバランスである。

ハ. 滑走中1回以上のジャンプを含む積極的なボード操作を行っている。

ニ. 斜面状況に合わせたターン弧で滑っている。

ホ. ターンリズムを変化させている。

(3) スイッチ&フェイキー

(中斜面 幅20m程度×長さ150m程度の平滑な斜面)

イ. 斜面上部を通常ターン、下部をフェイキーターンで滑降する。

ロ. 安定したスイッチ操作を行っている。

ハ. 左右のターン弧のバランス及び大きさが滑降状況にあっている。

ニ. 積極的なボード操作を行っている。

ホ. 安定したボディーバランスである。

(4) ジャイアントスラローム

イ. 斜面・旗門 FISルールを参考に、アルペンスキー教師基準に準ずる。

ロ. 回 数 滑降回数は各自2回までとする。

ただし合格タイムに達した者はこの限りでない。

ハ. 滑降順序 受検受付の順。

(5) エアー

(幅10m程度×長さ50m程度の安全な着地点を確保できる斜面上に作成したエアー台を使用する)

イ. 積極的なアプローチと安定した空中バランスである。

ロ. 条件に合った飛距離と安定した着地。

ハ. 難易度の高いトリックを評価する。

ニ. 3D、ワンフットエアーを禁止する。

2. 指導実習

イ. 適切な言葉遣いができる

ロ. 指導能力（表現力・説明力）がある

ハ. 技術及び用語を理解している

ニ. 指導カリキュラムを理解している

ホ. 指導展開が適切である